



# 冬が長くて夏が短い

## 北国の不思議な季節感

今となつては、もう何年も前のことになりましたが、旅行者として函館に来るようになって、いちばん驚いたのは季節感でした。

関西では梅雨の時期に見ごろを迎え、夏には姿を消すはずのアジサイの花（正しくは花ではなくガクだそうです）が夏から秋に真っ盛り。3月末から4月初旬に到来するはずの桜前線が、こちらではゴールデンウィーク前後にやってきました。

2月の中ごろ沖繩に行き、すでにその年の「桜まつり」が終わっていた



秋深し、アジサイがこんなに元気で驚いた(11月14日、旧イギリス領事館で撮影)

ことに驚愕した記憶がありますが、日本列島というのは南北に長いということを実感しますし、北に行けば行くほど春の到来が遅いわけです。

まあその分、冬が来るのも遅ければ、単に季節がずれるというだけの話ですが、逆に北国は冬が早い。常識的に考えれば、これは由々しき問題です。全国どこでも平等に365日ある一年の中で、春、夏という活動的になれるはずの期間が短いわけです。生産性にもハンディキャップが生じて然るべきかもしれません。

## 寒いはずの北海道で、ビールに氷

これも古い話ですが、昭和が終わる平成の幕開け、バブル経済真っ盛りどころ、旅行で冬の北海道を訪ねることになりました。

インターネットもなかった時代ですが、一部のテレビや雑誌で、「札幌ではロック・ビールがブームになっていくらしい」「みたいなのがささやかれています。

どうやら北海道限定で、9度というアルコール度数の高いビールが出ていて、お洒落な道産子たちは、それをオン・ザ・ロックで楽しんでいくのです。

よし私も是非、北海道でロック・ビ

ールを、と意気込んだ反面、どうして極寒の冬の北海道で、わざわざビールに氷を入れて飲むのだから、という素朴な疑問が湧き上がってきました。当時の感覚では、ビールは夏の飲み物というイメージが強かったように思います。

しかし北海道に来てみると、すぐにその謎が解けました。ガンガン暖房するため、関西の冬よりはるかに暑く、喉もじりじり渴いてきます。

呑兵衛ならビールが飲みたくなるのは時間の問題。また同時に、雪印パーラーのアイスクリームが、当時の北海道旅行者の憧れだった理由もよくわかりました。北海道の室内は冬でも真夏並みだったのです。

## 寒さを逆手に

時は流れ、今やコンピュータ時代。ビジネスに大規模なサーバーは不可欠であり、それを収容するサーバー・ルームの冷房コストにも企業は頭をいためるようになりました。

小さなノートパソコンにも冷却用のファンが組み込まれているくらいで、とにかくコンピュータというのは、熱を放出するものです。

業務用のサーバーともなれば、発熱も半端ではありませんし、サーバ

ーの破壊や誤作動の原因ともなり、企業存亡の大問題になりかねません。当然冷却するわけですが、そのコストがバカにならないらしいのです。

ならばせめてサーバーだけでも、北海道のような冷涼な土地に設置すればどうでしょうか。冬場は雪も冷却に使えます。高速通信も発達した今、さほどのタイムラグもなく、大幅に冷却コストが削減できます。

もちろん素人の私が言うまでもなく、何年も前からそういう取り組みは始まっていますし、寒い立地を活用したサーバービジネスも出てきているようです。

しかし新聞、テレビの報道を見る限り、相変わらず、地域振興といえど即観光、という図式に偏っているように感じます。地域が富を生み出せるのは観光だけではない。マスメディアには、もっとそういう情報発信を期待したいものです。

★プロフィール★

おおにし つよし  
**大西 剛**さん

1959年生まれ、大阪出身。  
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組む。本年は、スマホに頼らず函館情報を携帯できるよう、既刊の本格的函館案内書「市電でめぐる函館100選」を分冊・豆本化。